平成 31 年度　長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

1　受検者数　　（ ）内は前年度比較

・受検者総数　11,114 人(－275 人)

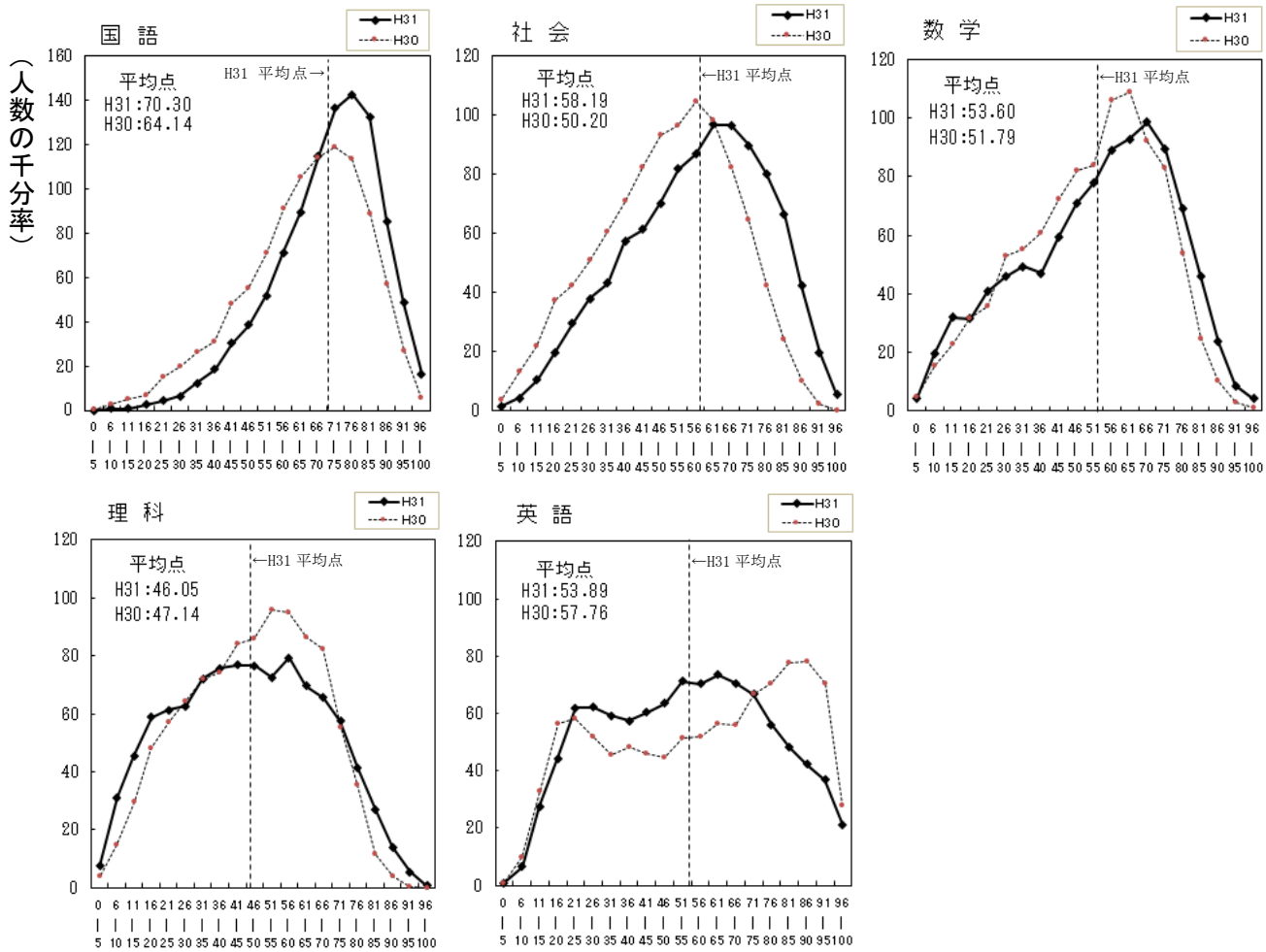
・全　日　制　　10,812 人(－255 人)、定　時　制　126 人(－19 人)、多　部　制　176 人(－1 人)

2　教科別結果

（　）内は前年度数値と増減

	国　語	社　会	数　学	理　科	英　語
平　均　点	70.3 (64.1, +6.2)	58.2 (50.2, +8.0)	53.6 (51.8, +1.8)	46.1 (47.1, -1.1)	53.9 (57.8, -3.9)
100 点の人数	30 (9)	6 (1)	12 (1)	1 (0)	33 (34)
0 点の人数	0 (0)	3 (3)	5 (10)	6 (2)	3 (1)
標準偏差	15.4 (17.5)	19.7 (18.7)	21.2 (19.2)	21.2 (18.7)	23.1 (25.8)
変動係数	0.22 (0.27)	0.34 (0.37)	0.40 (0.37)	0.46 (0.40)	0.43 (0.45)

3　教科別得点分布グラフ



4　結果の考察と授業改善に向けた取組

○　作問にあたっては、設問毎の予想正答率を算出したり、教科横断的に協議を深めたりしながら検討を行ってきた。その結果、各教科とも問題の質・量・難易度について、概ねバランスのとれた出題であったことが得点分布の様子から推察される。

○　今回出題した知識・技能を日常生活や社会の事象と関連付けて活用する力を問う問題から、中学校においても適切な問題であると評価された数学の問題（問2(1)③）について、結果を考察した。

これまでの問い方　Before

1 個 150 円のチョコレートを 2 個買った人と 3 個買った人について，人数の合計は 28 人，金額の合計は 10950 円であった。チョコレートを 2 個買った人数を x 人，3 個買った人数を y 人として連立方程式をつくり，それぞれ求めなさい。

教師が指定して立式

自ら文字で表す数量を設定し、その文字を使って方程式を立式

今回の出題　After

ある日の，1 個 150 円のチョコレートを 2 個買った人と 3 個買った人について，人数の合計は 28 人，金額の合計は 10950 円であった。チョコレートを 2 個買った人数と 3 個買った人数を，一次方程式または連立方程式をつくり，それぞれ求めなさい。ただし，最初に，求める数量を単位をつけて文字で表し，一次方程式または連立方程式と，途中の計算過程も書くこと。

〔考察〕

・5 割近くの受検者が、自ら文字で表す数量を設定して方程式を立式し解を求めることができた。

・２割程度の受検者が、問題を読み解くことに課題を抱えている。

〔授業改善に向けて〕

事象を理想化・単純化して問題を解決していく過程において、教師が指定して立式させるだけではなく、

・どの数量を文字で表すのかを比較検討する活動が自然に生まれるようにしたい

・生徒が自ら考え出した複数の方法を互いに説明し合い、討論する場面を設定したい

そうした中で、適切な立式とは何かを考えさせたい。そのために、**授業で日常的な事象の中にある問題を取り上げ**、数学を活用して解決していくことの意義に気付き、学ぶ必要感がもてるように指導していきたい。

5　外部評価者・中学校からのご意見

〔成果〕

・思考させ、自分なりに論理を組み立てて記述する問題や自分の考えを書かせる出題は望ましく、今後も継続してほしい。

・授業改善に向けたメッセージを問題から強く感じ、授業改善が進んでいると感じる。

・どの教科においても言語能力、思考力を問う問題が増える傾向にあり、授業で「つけるべき力」を正しく評価できる出題になっており、望ましいと考える。

・身近な事象からの出題、記述論述が増えることはよい。

〔課題〕

・全般的に問題文の量が多く、読み取るだけで時間を使ってしまう。教科の見方・考え方をはたらかせて深く考える時間を確保してほしい。

6　今後の対応について

・学習指導要領に基づき、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力等の学力が総合的にみられる問題となるよう引き続き工夫するとともに、授業改善のメッセージとしても役立てていく。

・思考力・判断力・表現力等を問う問題に対する受検者の解答時間の確保の観点からも、全ての教科にわたって、問題数、文字数等のバランスに一層配慮したい。